

『水』 私たちが生きていく上で必要不可欠な物だと考えます。日本にはたくさんある河川があり、私たちの生活を支えてくれています。例えば、飲用。水道の蛇口を捻ると綺麗な飲み水が出てきます。家事にもたくさん水を使います。そして、農業。お米作りや野菜作りにも水は必要です。畜産業にも、必要な物となっています。あらゆるところで、『水』と私たちは切っても切れない関係にあります。

小学三年生の夏休みの時、「川はどこから水が来るの？」の一言がきっかけで、家族で岐阜県にある『分水嶺』を訪れることにしました。山の中にひっそりと、その分水嶺がありました。水を見てみると、透き通っていて、夏なのにとても冷たくて驚きました。

私が住んでいる市の北側には『木曾川』が流れています。その川を見てみると、そこで見た透き通った水とは違い、少し色がついた水になっていました。その理由を調べてみると、私たちの生活排水も大きく関わっていることに当時の私は、胸を痛めたことを今でも覚えていています。

今回、この作文を書くにあたり、父や母とも水について話をしました。夏になると毎年のように『水の枯渇問題』がニュースで流れてくることを母から聞きました。その時期になると『節水』が呼びかけられることもあると聞かされました。私たちが、日々使用する水も『限りある資源』ということを再認識させられました。

また、一方で父は、平成一二年東海豪雨の被災者だったことも聞かされました。夜、どこが道なのか分からない。足で探りながら避難したことを教えてくれました。校舎の二階で寝られない一夜を過ごしたと聞きました。氾濫と枯渇、相反することが気象条件により起きていることが分かりました。『SDGs』を掲げ、動き出しています。その中の項目に

・安全な水とトイレを世界中に(第六項目)

・気候変動に具体的な対策を(第一三項目)  
・海の豊かさを守ろう(第一四項目)

『水』に関わることが一七項目の中に三項目あり、とても重要な役割を担っていることが分かります。私たちができることは、何か考えた時に、最初の一步は、水を大切に使うこと。その次に、環境保全をするためにゴミのポイ捨てや汚物等を川や海にしないこと。そして、温暖化が進まないように再生可能エネルギーを駆使し、脱炭素で気候変動しないようにすることではないでしょうか。

ここまで聞いたり、調べたりする中で一つの疑問が湧きました。地球は陸対海で考えると三対七で海が大きく占めています。なぜ、枯渇問題が起きているのか。なぜ、発展途上の国々では水道ではなく、未だに井戸や川から水をくんできているのか。それも調べてみました。大きな要因として、上水道設備が整っていないこと、その設備を造る技術がないから、整備ができないことが分かりました。そして、海の水を浄水する設備には莫大な費用がかかることも分かりました。私の『海の水を利用する』という考え方は、少し浅はかで恥ずかしく思いました。その一方、アフガニスタンで現地の人々の生活環境を改善しようと、かんがい用水を造った中村哲先生は、行動力に溢れていて、感銘を受けました。

ここまで感じたことは、私自身ができる身近なこととして、限りある資源の水を感謝しながら大切に使うこと、川や海でゴミを見つけたら拾える範囲で捨てることだと思います。そして、大人になったら中村先生のように発展途上の国へ行って支援することが難しいかもしれませんが、少しでも多くの人に安全な水が届くように日本から何ができるのかを考え、行動していきたいと思えます。